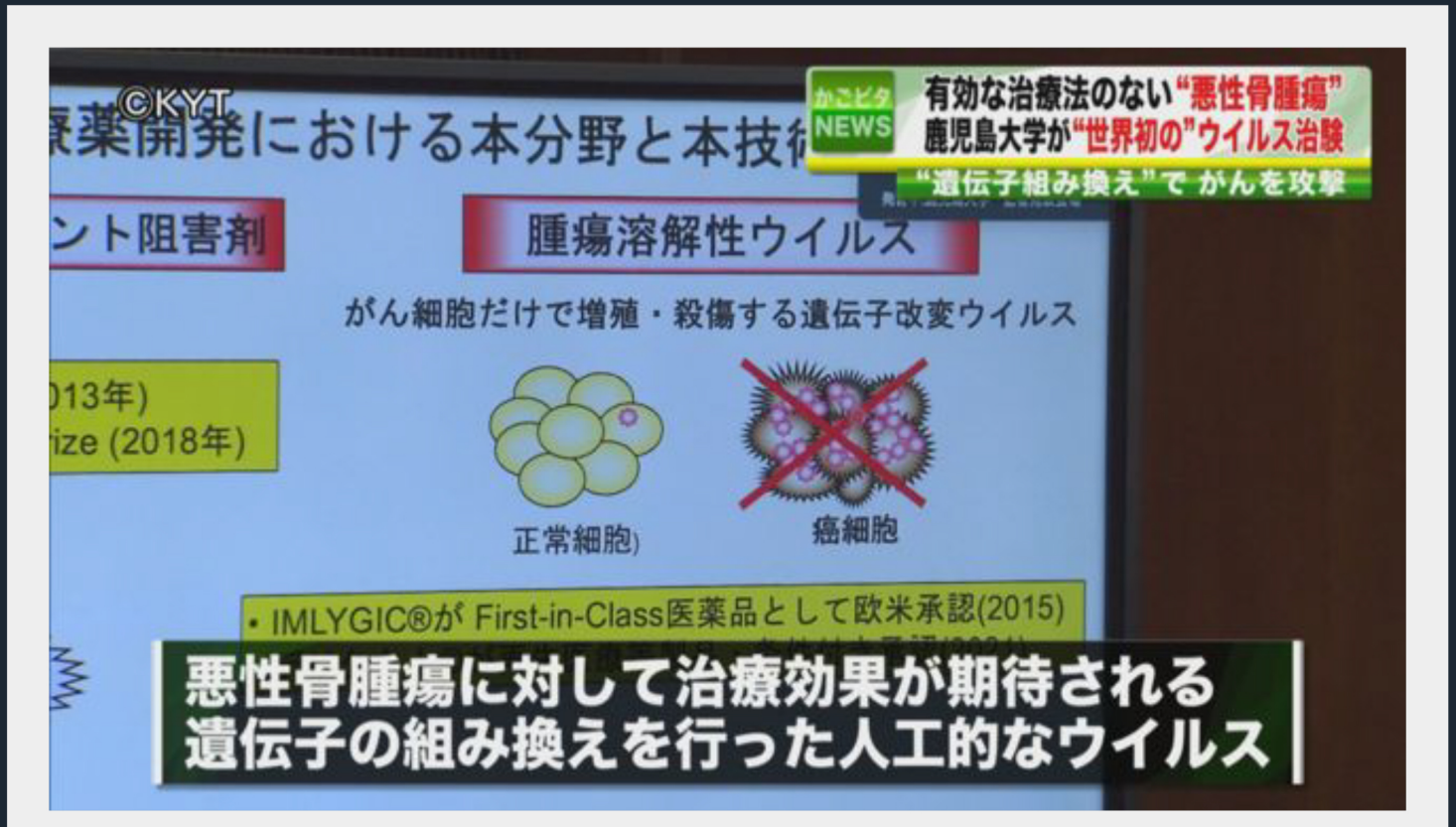


治療困難…悪性骨腫瘍 鹿大が世界初“ウイルス治験”



治療が困難な悪性骨腫瘍の新たな希望となるか。鹿児島大学は治療法の実用化に向け、世界で初めてとなる患者への治験を始めたと発表した。

悪性骨腫瘍は100万人に4人が発症するという珍しいガンで、有効な治療法がない。こうした中、鹿児島大学が現在、開発を進めているのは、悪性骨腫瘍に対して治療効果が期待される、遺伝子の組み換えを行った人工的なウイルスだ。体内に取り込まれたウイルスは異常のない細胞に感染しても増殖しないが、悪性骨腫瘍のがん細胞に感染すると増殖して、細胞を殺す働きをする。

2016年から1回目となる患者への治験が行われ、国に安全性と効果を認められた。2021年5月からは2回目の患者への治験が行われている。悪性骨腫瘍に対するウイルスの治験は世界で初めてで、2回目の治験では20人の患者に対しウイルスを投与して、効果を確認するという。

鹿児島大学の小賤健一郎教授は「20例を終えて、早期、社会に実用化して、薬として患者さんに返したいという強い決意を持っている」と話した。

鹿児島大学は2025年までの承認申請を目指したいとしている。